

令和6年度 岡谷市総合教育会議 会議録

以下のとおり、会議内容について報告いたします。

-
- 会議名 令和6年度 岡谷市総合教育会議
- 日 時 令和7年2月4日（火）午前10時00分～11時20分
- 場 所 市役所605会議室
- 出席者 構 成 員 早出一真市長、宮坂享教育長、太田博久教育長職務代理者、
藤森一俊教育委員、小平陽子教育委員、林慎太郎教育委員、
轟美緒教育委員
- 市長補佐 藤澤正副市長
- 事 務 局 岡本企画政策部長、荻原企画課長、芳沢政策推進主幹、藤森主査
- 補助執行 白上教育部長、両角教育担当参事、
濱主幹指導主事（兼）学びの創生・連携支援室長、白田生涯学習課長、
小松スポーツ振興課長、味澤教育総務課統括主幹、西山教育企画主幹、
新村川岸学園整備主幹、
小口健康福祉部長、高橋子ども課長、小口保育主幹、矢澤主査
- 議 題 1 岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）について
2 川岸学園整備について
3 つるみね保育園について
- 配付資料 ①岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）
②川岸学園整備事業 工事等スケジュール概要
③川岸学園整備事業（工区分け図）
-

開会

企画政策部長 ただいまから令和6年度岡谷市総合教育会議を開催いたします。はじめに早出市長よりあいさつを申し上げます。

市長あいさつ

市長 本日はお忙しい中、岡谷市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。教育長並びに教育委員の皆様には、日頃から岡谷市の教育行政の推進に多大なるご尽力を賜り、感謝申し上げます。

本日の総合教育会議は「岡谷市小中学校情報機器等整備計画(案)について」、「川岸学園整備について」、「つるみね保育園について」協議をお願いいたします。

本会議を通じて、市と教育委員会の連携をさらに深め、第5次岡谷市総合計画の教育に関する基本目標であります「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」、また、岡谷市教育大綱に掲げる基本理念であります「自立し共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり」の実現に向けて、着実に前進してまいりたいと考えておりますので、活発な意見交換をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

企画政策部長 続きまして、宮坂教育長よりご挨拶をいただきます。

教育長あいさつ

教育長 教育委員会を代表して、一言ごあいさつさせていただきます。

市長さんをはじめ、市長部局の皆さんにおかれましては、日頃より、岡谷市の教育行政の発展に向け、大きなご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

令和6年度も終盤に差し掛かり、小中学校では受験や卒業、学期末など、大きな節目を迎える大切な季節となってまいりました。寒暖の差が激しい時期でもありますので、子どもたちの健康と安全に留意した学校運営に努めているところであります。

本日教育委員会からは、1人1台端末の次期端末の更新に向け、教育ICTを積極的に活用していくための教育委員会の計画（案）について、説明させていただくとともに、川岸学園整備に関してご協力などをお願いしてまいります。

いずれのテーマも岡谷市と教育委員会に関連する大切な内容でありますので、教育委員とともに有意義な意見交換などをさせていただければと考えております。本日は、よろしくお願いいたします。

企画政策部長 それでは、本日の会議に入らせていただきます。以降の会議の進行につきましては、本会議の運営規則に基づきまして、藤澤副市長にお願いをいたします。

議題1 岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）について

副市長 次第に沿って会議を進めてまいります。会議の終了時刻は11時30分頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題の（1）岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）について、教育委員会からお願いします。

教育長 現在、小中学校の児童生徒が使用している1人1台端末をはじめ、学校の情報機器等につきまして、更新時期を迎えており、今後のGIGA端末の整備に関する考え方や学校の情報機器整備に関する教育委員会の計画案をまとめてまいりましたので、本日は、その内容について説明させていただき、ご協議などをお願いしたいと考えております。

【味澤教育総務課統括主幹より説明】

岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）をご覧ください。

以下、資料に基づき説明。

（資料①）岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）

副市長 ただいま説明がありました岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）について、意見交換を行ってまいりたいと思います。最初に、宮坂教育長お願いします。

教育長 私自身は2つのことを期待しておるところであります。1つは、1人1台端末の利活用によって、現在も行われているところではありますが、学級閉鎖時だとか、長欠の児童生徒等に対して、学習動画の配信等がさらに強化されるということで、多様な学びの環境づくりが一層深まっていくと嬉しいと思っておるところであります。

もう1つは、校内ネットワーク環境の強化ということで、学校間のWeb会議だとか、遠隔授業等を通して、利便性を活用した事業を少し大きな規模で、中学校間等でできていくことが嬉しいと思います。

いずれにしても、情報活用能力の一層の育成を図っていく1つの契機にできればと思うところでもあります。

太田職務代理 コロナ禍を経て、岡谷市でも一気に情報機器の導入が進められ、時代の流れの中で、これから先も避けられない必須のことだと思っています。今後も更新・入れ替えが必ず生じることで、きちんとした計画を作って、しっかりとした情報機器整備の基盤を作っていきたいと思っていますので、ぜひ、バックアップをお願いできればと思っています。その際に、都度、大変な費用もかかるので、国や県など様々なところとタイミングをしっかりと合わせてやっていくということも大事なことでと思っています。

将来に向けてということで申し上げますと、やはりどんな内容のものをどう使って、子ども、児童生徒の成長、学びというものにどんな効果をもたらしていくのかということが非常に重要な点だと思っております。岡谷市は、今ちょうど川岸学園の整備推進ということで、岡谷市の将来の教育に向けて非常に重要で大きな転換点だと思っております。川岸学園整備の中で大きなテーマとして掲げられている、幼保小中の連携について、この連携というところ、繋がりを作っていく、生み出していくという点に、やはりこういった機器の一番のメリットはあろうかと思っております。これから川岸学園については、どんなテーマに従って、どのような教育をしていくのかということ具体的に検討していく段階に入っていきますけれども、その先には、この川岸学園での成果というものを中心にしながら、設備の状況は違いますが、岡谷市全体の小中というところにも形を広げていき、岡谷市としての1つの教育のあり方というものを作り上げていくという非常に重要な時期を迎えていると思っております。情報機器の整備ということを経続的にしていくことによって、他の学校でも、小中連携、あるいは幼保の連携とか、そういったつながるところへ活かしていければと思っております。そして、その先に、今も議論されている高校再編、地元の高校への学びの連携というようなところでも活用していけるような基盤を作っていくというところに、ぜひつなげていければと思っております。

また、先生方の校務DXということでも、非常に大きな効果があると思います。こういったことに取り組む中で、すべてが効率的になるといったメリットだけではなく、今までなかった手間が逆にかかるといったこともあると思います。それで

も、様々なデータがつながったり、統一された業務というようなことでもたらされるメリットというのはあると思いますので、先生方の仕事の効率化により事務棟の手続きが減って、子どもや児童生徒に目が向けられる時間を増やしていけるというところにつながるような整備を進めていければと思っております。

それからもう1点は、先ほど教育長先生からお話がありましたけれども、長期欠席といったお子さんたちに関する機会の提供ということでは、すでに一定の効果が見出せていると思っていますし、不登校、あるいは命の問題に関わることに對しても、やはり孤立させないというところがこういった機器の一番のメリットと思っています。連携、繋がるということを最大限活かしながら、岡谷市の教育に活かしていければと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

藤森教育委員 太田職務代理からお話をいただいた内容については、私も同じく感じている部分があります。特に、その中でとりわけということでご意見申し上げますけれども、コロナ禍を受けて、いわゆるDXであったりデジタル化というのが社会のありとあらゆる場面で、急速に進んでいるということの中で、教育現場においても当然のことながら、こういったものを活用して、より良い教育を進めていくということが大事だと思います。

今回の計画で、校務のDX計画が少しクローズアップされており、今は慢性的にありとあらゆる業界で人手不足の中、やはり先生方もなり手が少なく教員不足という状況で、こういったデジタルツールをうまく活用して業務の効率化を図って、マンパワーの足りない部分を補完していくという流れになっていると思います。良い先生方が岡谷市で働きたいと思っていただけるようなことをいかに進めていくかといった上でも、この統合型校務支援システムであったり、先生方のパソコンのフルクラウド化など、何かしらのメリットを出してくれるのではないかと期待をしておりますので、ぜひ進めていただければと思います。

その反面で、サイバーセキュリティなど社会で問題になっていますし、民間企業がサイバー攻撃によりお金を振り込んでしまうニュースなんかも報道されています。情報セキュリティ対策の強化というのも計画の中に盛り込まれていますが、当然のことながら便利なシステムでありますけれども、やはり便利なものを導入していくと、そこにはリスクというのが伴ってくると思いますので、ぜひ、この情報セキュリティ対策の強化という部分をしっかりとさせていただいて、安全に安心して使えるようなシステムにしていただければと思います。

小平教育委員 教育長先生がおっしゃったように、子どもたちの想像力や個性を育てていくようなGIGAスクール構想になってほしいと思っております。

今、情報機器や技術の進化が激しい中で、岡谷市が第2期の整備をしてくださるのは大変重要なことだと思います。その中でも、子どもたちが情報機器の活用で、新たな表現ができるのではないかと期待しております。個々に応じた個別最適化というイメージで捉えているのですが、最近は動画からまだ学ぶことが大変多いです。絵を描くジャンルでもちょっと検索すると、ものすごい情報で、知らなかった画材、表現方法などが出てきます。もちろん注意が必要だとは思っていますが、世

界中の情報がすぐに手に入ることはなっているので、その中で子どもたちが何か新たな使い方を見つけ出してくれるのではないかと期待をしています。先生や大人たちは一緒に付き合っていく、見届けていくという形で新しい学びができていくのではないかと考えています。岡谷市の場合、調べ学習をしっかりとされているが、個々の学びを深められるということで、ネタというか課題もたくさんそろっています。シルクであるとか、歴史であるとか、考古であるとか、いろんなコンテンツが岡谷市にはあると思います。そういうものの資料など、子どもたちがたくさん調べられるのではないかと期待しております。

あとは個々に深める以外にも、人との交流にも大変必要なツールになっていると思います。例えば、姉妹都市である海外のマウントプレザント市との交流英語学習に使えると思います。

また、今の子どもたちは、本当に動画に慣れていると思います。その中で、自分からの発信の仕方を深めることができればと思っています。例えば、SNS等でものすごい短い動画がどんどん出てきますが、その中でも訴求力があるものはあります。若い子どもたちには可能性があるもので、そういうものからどんどん学び、そういうところをどんどん深めていって欲しいと思っています。

ただ、それと同時に項目にもありました情報リテラシー、情報モラル教育、これは本当に大事だと思っています。すごいスピードでAI技術が進化していて、私もだまされそうな動画を先日目にし、息子にフェイクとわからないかと言われました。ゲーム動画に慣れている若い世代の子どもたちには見慣れているものだと思いますが、本当に精巧に作られており、簡単に作ることができるようになってきます。要するに、情報を知らない、使いこなせないということはだまされてしまう、トラブルに巻き込まれる原因にもなると思いますので、ぜひ子どもたちにその辺の教育をしっかりとさせていただくとともに、どんどん更新されていくと思いますので、よりこまめに研修や情報収集をしていくべきと思っています、そのようなプログラムも教育委員会の方でしっかりと考えていくことと感じています。

轟教育委員

今回、第2期の更新ということで、フルクラウド化が盛り込まれており、セキュリティがより画一確保されるというイメージを持っています、とてもいいことと感じています。加えて、利便性、効率化という面で校務のICT化も当然の流れとして理解しているので、すべて良い傾向と感じています。

ただ、気がかりな点としては、こういった効率化、利便性というのが進むあまりに、対面の会話やコミュニケーションみたいなものが不足しないような形で運用していくということが、今後、大切と感じています。高校、大学とかであれば、一方的な通信、配信の授業みたいなものでもいいと思いますが、小中の場合はまた違うと思っており、余り淡泊になりすぎないような働きかけというのも重要になってくると感じます。例えば、出欠1つ取ってもポチッと終わってしまうようなものというのは今までになく余りにも単純な動作で済んでしまうので、それゆえの怖さという部分もあり、注意が必要と感じています。

今回、GIGA第2期ということですので、使いこなすという面に関しては、心配はだいぶなくなってきていて、生徒も先生も慣れてきているというイメージを持

っています。各保護者や生徒に寄り添った教育をDX・ICTを使ってやっていくということは、文面で書けば理想的ではあるのだけれども、いざやれば、意外と難しいと想像しています。

先ほどの一方的な講義ではないということも1つですが、Web会議とかでやる場合に、多拠点でやるケース、「多数」対「1」みたいな時というのはその取り回しが結構大変だという話もよく聞きます。それに対応するのが先生ということになると、技量というか、今までの授業とはまた違った形の授業の体制というようにもなってきます。ツールが入ってきたことで、良くなる部分というのはたくさんある一方で、逆にそのすべてが解決できているわけではないので、授業のやり方とかは今後の課題として、工夫とかが求められていく部分でもあると感じています。

市長

教育長はじめ、教育委員の皆様からは課題や危惧されている部分を含めて様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

国のGIGAスクール構想により、小中学生に1人1台端末が導入されたことで、学校のデジタル化が一気に加速をいたしました。来年度からはその第2期として、次の端末の導入や校内業務やネットワーク環境の変革が予定されているということでございます。今後、更に端末を使って子どもたちが学ぶ姿は当たり前の風景になっていくと思っています。

子どもたちが情報機器を賢く使い、その便利さを知ってもらうためには、学校の先生方の日々の関わりが大切であります。教育委員会としてもしっかりとサポートしていただきたいと思っておりますし、未来を担う子どもたちに必要な情報活用能力の育成に向け、皆様方のご尽力をお願いしたいと思っております。

副市長

それでは、岡谷市小中学校情報機器等整備計画（案）につきましては、内容を確認いただいたということでよろしく願いいたします。

議題2 川岸学園整備について

議題3 つるみね保育園について

副市長

続きまして、協議事項の（2）川岸学園整備について及び（3）つるみね保育園については、関連議題でありますので、一括での協議とさせていただきます。始めに早出市長お願いします。

市長

川岸学園整備につきましては、昨年11月に基本計画（案）を公表し、以降、実施設計を進めていただいております。もとより、この事業は義務教育学校の開設と認定こども園の併設をめざす、市と教育委員会が密接に関係する大きな事業でありますので、本日は、新年度からの工事着手に向け、全体の整備スケジュールの様子や工事の進め方、概算事業費の状況や開校、開園時期の見通しなどを委員の皆様と共有し、協議、調整などをお願いしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

また、西部地区4園につきましては、川岸学園整備に伴う公立の幼保連携型認定こども園の整備完了をもって閉園とする予定でございましたが、つるみね保育園について

は、三沢区から借用の申し出を受け、本年度中に閉園いたしたいと考えておりますので、ご報告させていただきます。

副市長 それでは、この件について説明をお願いいたします。

【新村川岸学園整備主幹より説明】

(2) 川岸学園整備について

私から川岸学園整備について説明させていただきます。

以下、資料に基づき説明。

(資料②) 川岸学園整備事業 工事等スケジュール概要

(資料③) 川岸学園整備事業 (工区分け図)

(3) つるみね保育園について

川岸学園整備によりまして、地域の保育園については、集約化をして、新しく建築します認定こども園への統合をし、新園の開園に伴って閉園とする予定でございます。このうち、三沢区内にありますつるみね保育園につきましては、昨年4月に新規の入所者がいなかったということで、令和6年4月から休園をしております。

つるみね保育園につきましては、地元区である三沢区より、公会所の建替工事中の代わりとなる施設としてつるみね保育園を使用させていただきたいという要請をいただきまして、つるみね保育園については、貸し付けをするため、本年度中に閉園をさせていただくことになりましたので、ご報告させていただきます。

副市長 ただいま説明がありました川岸学園整備について及びつるみね保育園について、意見交換を行ってまいりたいと思います。最初に宮坂教育長お願いします。

教育長 工事等のスケジュール感が示されたことで、私自身も期待感がとても大きくなってきております。

工事の安全面について留意することはもちろんでございますが、なかなかこういう機会に出会うこともありませんので、子どもたちが大事にしてきた学舎の解体等々も目にしていくなかでありますので、自分が育ってきた学校、また愛する校舎、そういうところの解体等々も大事に位置付けながら、学校、校長先生方と協力しながら、子どもたちの心を醸成する1つの感謝の心を養う場にもなっていければと思うところがあります。

また、今お話ありましたように、専門部会が始まっておりますので、ソフト面を創造していく部分でもそういうところとつなげながら、大事に学園構想の方の中身を詰めていかねばと願うところであります。

林教育委員 川岸学園整備事業については、令和7年4月以降からいよいよ第1期の工事がスタートされます。そういった中で、岡谷市にとって義務教育学校や認定こども園の整備は初めての事業で、生徒さんはもちろん、保護者や地域の方だけでなく、地域外の方からも非常に注目されています。

整備事業がスタートするということで、非常に楽しみにしていますし、いよいよ動

き出したなという気持ちもありますが、やはり学校に子どもたちが通いながらの工事ということで、もちろん工事される方は登下校時の安全面であったりとかに重点を置いて工事されるかと思えますけれども、そうは言っても大きなトラックが出入りする機会が非常に増えたり、授業している中での騒音であったりなど、懸念される部分がありますので、生徒さんたちにとってベストな環境で工事が進むことを期待しております。

先ほども説明にあったような物価の変動や工期の遅れなど、イレギュラーなこともあるかもしれませんが、そういった部分も地元の方、市民の方に随時ご説明していくような対応は大切だと感じています。

太田職務代理 いよいよ工事スケジュールが決まって、非常に期待をしていきたいと思います。今、林委員さんからお話があったように、事業費の面とか工期の面とか、まだまだ不確定な要素も十分ある社会情勢だと思っていますので、その辺のことは都度確認をしながらしっかりと進めていければと思っています。

このスケジュールがこうやってしっかり固まってくるまでのプロセスについて、私は非常によかったと思っています。広報等を通じてだったり、複数回の市民の皆さんに対しての説明会ということを中心に丁寧に今回は進められたのではないかと思いますし、そこには市長さんはじめ、市の皆さんの様々なご協力があって、非常にありがたかったと思っています。私も参加をさせていただいた時に、当該地域の保護者の皆さんはもちろんですが、それ以外の市民の皆さんも非常に関心が高いということ、それから不安もあるということ、でもそれ以上の期待も皆さん持ってくださいということ、その説明会の場において肌で感じさせていただいて、気持ちが変わって引き締まるような思いでございます。今回、ここに至るまではそういう形でかなりしっかり丁寧に、可能な限りのプロセスを踏ませていただいたということだと思っていますし、その結果として、そこで出させていただいた意見もかなり反映をさせていただいて、ここまでのスケジュールになっていると理解をしています。これから、より具体的な内容に入ってくる部分もありますので、そこでも同じように、あるいはそれ以上に、丁寧なプロセスを市の皆さんにもご協力いただきながら、ぜひ進めていきたいと思っています。

今回、義務教育学校は令和9年4月開校目標ということでございますけれども、やはり教育というのは、開校したら完成で終わりということではないと思っています。特に、これから先の社会は地域コミュニティというのは非常に大事になっていく社会だろうと思っていますし、その時に1つ中心になるのが学校ではないかということを感じているところもございますので、ぜひ、これをきっかけにして、保護者の皆さんはもちろんですが、それ以外の市民の皆さんとも、ともに創り上げて、ともに創り続けていくような、そんな川岸学園にしながら、それをまた岡谷市全体に広げていける、そんな形をぜひめざしていきたいと思います。そのためにも、形になるまでのプロセスというのを改めて大事にしながら、進めていければと思っていますので、ぜひよろしくお願いいたします。

藤森教育委員 工事のスケジュールをこういった形でご提示いただいて、改めて拝見しますと、令和9年4月の義務教育学校開校まで、本当にあと2年余りということで、いよいよだなと実感しております。また、このプロジェクトについて、40億以上という非常に大きな予算がついていて、まだこの先、物価の変動等本当に予断を許さないわけがありますけれども、岡谷市としても、並々ならぬ想いであることを改めて感じている次第でございます。こういった具体的な計画でスタートを切っていくということなので、これについては何とか計画どおりに無事進んでいくことをぜひお願いしたいと思います。

今回は認定こども園から義務教育学校ということで、ほとんどの保護者の皆さんにとっては、大切なお子さんが、人生の中で初めて学びをスタートする場所ということです。やはりそこに対する期待や不安など様々あると思います。すでに色々な場で意見を集約していただいたり、専門部会もスタートしているということでもありますけれど、やはり先ほど太田職務代理もおっしゃったとおり、開校してそこがゴールということにはなりませんので、いかに岡谷市として、魅力のある学校にしていくか、私もこれからは地域とかがすごく大事になってくる時代で、人口減少をして少子化も進んでいく中で、ある意味では学校という場が大勢の市民にすごく重要な現場になってくるのではないかと思います。そういった意味でも、この川岸という地域にスタートする認定こども園、幼保小中一体の教育施設ということでもありますけれども、岡谷市全体にとって大きな魅力ある教育の1つのモデルケースということになるように、ぜひ進めていければと思っております。ひいては、そのことによって、岡谷の魅力のある学校、ユニークな教育というのが、外に知れ渡って、できれば岡谷市で子育てをしていきたいと思っていただけるような、そんな魅力ある学校づくりまでやっていくことが、このプロジェクトの重要な目的ではないかと思います。ぜひそんなこともお考えいただきながら、我々教育委員としてもできるだけ協力をしていきたいと思えますし、市長部局の皆様方もそういった思いを持って進めていただければと思います。

小平教育委員 本当にお忙しい中、市長さんはじめ市の皆様には、説明会を沢山催して下さって本当に大変だったと思います。きめ細かなこのようなスケジュール、財政計画を含め、多くの方々のご尽力に本当に頭が下がる思いです。

川岸学園NEWSというのも発行されていまして、とても好感が持てる伝達方法だったと感じています。ワークショップも開催されて、思い出の木を残して欲しいとか、カイク学習を残して欲しいとか、新しくはないものの地域性のあるものを大事に思っている方々がいらっしゃるというのを感じました。ちょうど情報機器の整備も強化される機会もありますし、新しいものと古いものがうまく融合してくようなスポットになればいいと感じました。

そのような中で、情報機器やネットが進化しても、人との交流は大切で、地域の方や年配の方も含め、その方たちの協力がすごく大切でポイントになってくると感じています。不登校とかもすごく問題化されていますけれども、もっと自由にとらえて、学校に登校しなくてもそこに来られるようなスポットで、そこに育った子どもたちの誇れる心の故郷みたいなスペースになってほしいと感じています。市民も子どもも、みんながそんな気持ちになれるところになればいいと思います。

TOCOTONという取組もまだ十分に理解はできていないけれども、すごく期待しています。ここから良い岡谷市の生活スタイルとかイメージが発信できて、そこにはもちろんネットも使われていて、それでも地方都市の豊かな環境があって、そこに移住してきて暮らして、子どもを産んで育てたらいいなというイメージが膨らんでくるようなイメージを持っています。楽しみにしておりますので、ぜひよろしくお願いします。

轟教育委員

私もワークショップ形式の出前講座の開催や説明会を何回も開いていただいて、地域の声をしっかり聞くことができて、反映させていただいている結果、仕上がったスケジュールと認識しています。本当に順調に進んでいって欲しいということを願うばかりです。

ソフト部分に関しては、これからまだ十分時間もあると思いますし、新しい教育をめざす根幹になる部分と思っていますので、ハード部分のところでやっていただいたようなアンケートや聞き取りを繰り返しやっていただき、対象者の方への説明、意見交換みたいなものをさらに充実させて欲しいと思っています。川岸学園NEWSで拝見したアンケート結果を見ますと、私たちが想像していた質問や意見と違い、こういう意見やこういう質問が来るんだというその対象者ならではの問題提起があると感じているので、まだ時間は十分ありますし、そういったものをまた繰り返して、より良いものに最終仕上がっていけばいいと感じています。

市長

皆様、気持ちのこもったご意見ありがとうございます。説明のありましたとおり、全体の事業費につきましては、アスベスト対策や昨今の物価変動の影響等の外的な要因により、当初の見込みより増額となったことはやむを得ない事情ではありますが、同時に財源確保に向けた対応も進めており、事業の実現性については、心配はいらないと考えております。

また、工事スケジュールの都合から、やむを得ず、こども園の開園は半年ないし、1年程遅らせる必要が生じてまいりました。新園の開園に向けては、現在運営している、成田保育園と川岸保育園の2園の統合となりますので、環境が変わる子どもたちや保護者の皆さんにとって、一番よい時期に設定してまいりたいと考えており、丁寧な説明や意向の確認等を行っていく考えであります。引き続き、教育委員会には、この事業の中心的役割として、対応していただくこととなりますが、市も全面的に協力してまいりますので、開校、開園に向けてよろしくお願いいたします。

また、つるみね保育園につきましては、説明にもありましたとおり、3月定例会に条例改正の議案を提出し、議決いただきましたら必要な手続きを行ってまいります。

川岸学園構想の着実な推進とあわせて、統合4園の今後のあり方についても検討を深めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

副市長

それでは、川岸学園整備について及びつるみね保育園については、内容を確認いただいたということでよろしくお願いいたします。

その他

副市長 最後にその他ですが、何かご発言等ございましたらお願いします。

企画政策部長 令和7年度において、イルフプラザの館内空調設備更新工事を予定しております。イルフプラザにつきましては、建設から27年が経過しており、老朽化への対応が必要であることから、令和7年度から令和8年度にかけて館内空調設備の更新工事を予定しております。

この工事に伴いまして、カルチャーセンターにつきましては、令和8年2月から約4か月間、こどものくににつきましては、令和8年2月から約2か月間の休館を予定しております。

市民の皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

副市長 ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。
(なし)

以上をもちまして、本日の会議事項は終了となります。進行を事務局の方にお返しをいたします。

閉会

企画政策部長 本日は長時間、お忙しい中、ご協議いただきありがとうございました。
以上をもちまして、令和6年度岡谷市総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。